TaKaRa 田んぼの学校

# 「草取り編」自然観察支援

渋谷　孝子（流山市）

日　時　：2009 年 6 月 6 日（土）8：45～16：10
実施場所：印旛郡栄町「ふれあいプラザさかえ」
生徒数　：30 家族　106 名
担当者　：赤木光明　栗山忠俊近藤維久子　阪上津留美　渋谷孝子
　　高井昭夫　田中玉枝

焼酎や清酒「松竹梅」などでおなじみの宝酒造（株）による環境の取り組み「田んぼの学校」の自然観察の部分をお手伝いしてきましたので、ご報告いたします。（経緯は「しおかぜ」128 号 16 ページ）この学校では、お米づくりや自然観察などを体験しながら、「自然の恵みと命のつながり」をテーマに、4月からの半年間に計4回の授業を行います。第1回の「田植え編」から「草取り編」「収穫編」までの授業は、栄町で行います。そこでは、自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米(もち米)ができるまでを体験するとともに、田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物を観察します。第4回の「恵み編」の授業は、宝酒造松戸工場にて餅つきをしたり、お米から本みりんができるまでなどについて学びます。

観察会で利用できるのは、舗装道路の道端の雑草、除草剤の心配な会場近くの畔少々、手入れの行き届いていない花壇・・・。けれど期待に胸をふくらませて遠くは神奈川県からやってくる都会暮らしの親子（応募総数 1403 家族から抽選で選ばれた）に、自然の素晴らしさ、不思議さ、そして自然の大切さを体と心で感じてもらいたい！　これは、ある意味とても難しいご案内です。できるだけ現場にあるものを観察しながら、足りないものは持ち寄り、また室内で顕微鏡や寸劇を駆使して・・・

写真：TaKaRa ホームページより

6月6日の「草取り編」では、田んぼで咲くイネの花の代わりにイネ科の雑草の花をルーペでのぞいてみたり、よく実ったカモジグサの種子を剥いてみて、お米みたいな白いものが入っているのを確かめたり、そのデンプンの味を確かめてみたりしました。4月の「田植え編」の時に女王蜂がたった1匹で作っていたフタモンアシナガバチの巣は大きくなっており、働き蜂も増えていました。ヒルザキツキミソウの花粉が糸を引くのに気付き、その理由を考えたり、アマガエルを追いかけたり、ガマの葉をナイフで切って構造を見たり、顕微鏡でミジンコやアブラムシを見たり。カラスムギの種子が雨に打たれるとどうなるかと言う実験では、思いがけない動きに歓声があがりました。このタネのつくりをよく観察し、動く目的と仕組みを皆で考えたりしました。

近藤さんが座長を務める劇団「たから」（団員は上記7名+宝酒造社員2名）は、「お日さんだけでは困るんだ」「雨よ降れ！」、イネはバッタに、バッタはカエルに、カエルはヘビに、そしてヘビはタカに食べられ、「命はつながっている、つながっている・・・」と、命のつながりを大真面目に訴えたのですが、小学校以来の舞台出演で、皆大いに緊張しました。

長い一日の、なかなか苦労も多い自然観察のお手伝いではありますが、参加親子の目の輝きにパワーをもらって、今年も恵み編まで頑張ります。